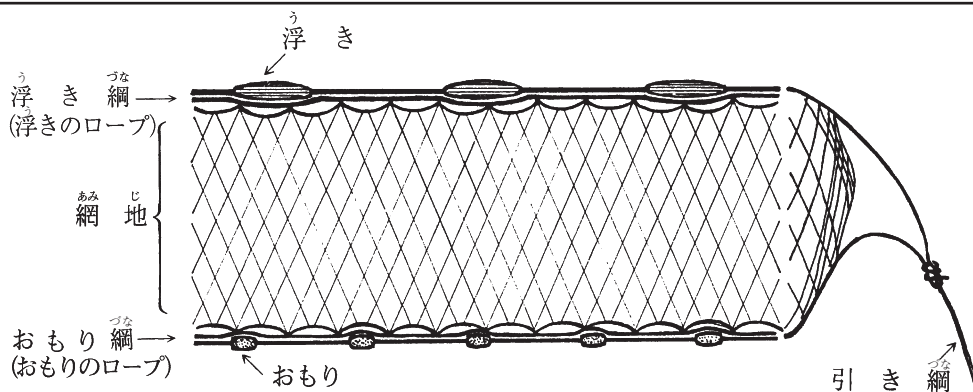


あみ 地引き網

1 地引き網とは

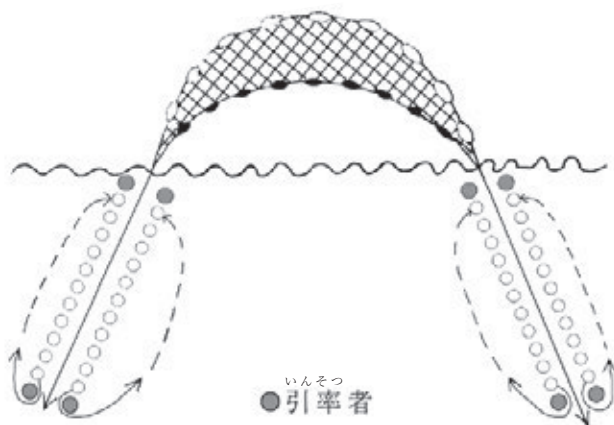
地引き網は905年(延喜5年)に現在の大阪府堺市でイワシを捕る目的で始められたと言われていま
す。その当時では最新最大のすぐれた漁具で、子どもから高齢者にいたるまで喜び勇んで網を引いたこ
とと思われます。渋川青年の家の網は長さが約100mあり、これを船で沖合40mくらいのところへ半円
形に入れて岸に引き寄せます。網を入れる時機は、潮流の緩やかなときが良いようです。

2 網の構造



3 地引き網の作業

1 網引き



- (1) 前の人から順にロープを持ち、後ろへ引きながら下がります。
- (2) 図の点線のように、後ろから前に移動して網を引きます。



2 網たぐり



基本の構え (右手の構え方)

右腕を直角に曲げ、肘を脇につけ、手の平を上に向けて、親指を立てます。



(1)「浮きのロープ」を左手で持ち上げて、浮きと浮きの間のロープを右手、手の平に乗せます。

(2)左手を高く上げます。

(3)左手で、右手(基本の構え)の真下の網地をつかみ、引き上げて右腕に乗せます。

(4)(3)の動作を数回くり返して、目の前の網地がピンとはったら、網たぐりを一度止めます。

～全員で獲物を捕ったあと、後半の網たぐりを行います～

(5)「おもりのロープ」が持ち上がる直前まで前方に歩きながら網たぐりをします。

3 網運び (網の積み込み)



(1)運ぶ方向に体を向け、左手で、腕を伸ばしたまま足もとにある「おもりのロープ」を持ち上げます。

(2)右腕にのせた網を左脇の下で落ちないようにはさみます。

(3)前の人との間の網がたるまないように、前をよく見て歩きます。

(4)船に近づいて網を積み込むときには、左腕を水平に上げ、「おもりのロープ」と「浮きのロープ」を別々の先生に手渡します。

